

イネ科通信 14

淀川毛馬大堰観察会

(2012/11/9)

1. 淀川の河原はオギに覆われて素晴らしい景観を呈していました。淀川ではススキは見られませんでした。今回もオギとススキとを比べてみました。穎果(果実)をみるとオギには芒はなく、ススキには芒があり曲がっています。ススキの小穂基部の毛の長さは小穂の1~2倍、オギの方は2~4倍です(写真右2枚)。



穂ったオギとその穎果(果実)



穂ったススキとその穎果(果実)



2. セイバンモロコシは荒地、道端や河川敷などに生えます。多年草でススキやオギと同じく長い葉身を持っています。それぞれ中央脈が丈夫なため葉身は反転していません。下左は根元の方から上に向かって撮ったセイバンモロコシです。穎果は熟して中から黒光りしている種子がみえています。



○最下段の左は穎を破って取り出した黒光りの種子です。

○最下段の中央はセイバンモロコシの小穂です。中央に両性花(この写真では穎果)があり、両側に2個の雄花(枯れています)が見られます。即ち、セイバンモロコシの小穂は無柄の両性花1個と有柄の雄花2個から構成されています。

最下段の右には雌蕊のブラシ状の柱頭が見られます。



セイバンモロコシ
の
花言葉
「唯我独尊」